

第5回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第5回鳥栖市総合教育会議
日 時	平成29年1月11日(水) 開会 午後 1時05分 閉会 午後 2時35分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、深川教育委員、 吉原教育委員、戸田教育委員 事務局：園木教育次長、江寄教育総務課長、柴田学校教育課長、 木村学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事、 原教育総務課総務係長
傍 聴	0人
協 議 事 項	◆鳥栖市立小中学校へのコミュニティ・スクールの導入について
発 言 者	内 容
江寄教育総務課長	ただ今より第5回の鳥栖市総合教育会議の方を始めさせていただきます。本日ご議論いただく内容ですけれども、次第にもありますように、「鳥栖市立小中学校へのコミュニティ・スクールの導入について」ということです。なお会議の進行につきましては、橋本市長の方にお願ひすることになりますので、橋本市長、よろしくお願ひいたします。
橋本市長	こんにちは。皆様には健やかに新年をお迎えのことと思います。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。 今日は年が明けての総合会議でございますが、教育長からコミュニティ・スクールについて議論をしたいというお申し出がございましたので、その件について、まずコミュニティ・スクールとはというところからあるんですかね。御説明をいただいて、その上で皆様の御意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
柴田学校教育課長	(資料に基づき説明)
橋本市長	はい、今説明ございました。それぞれ皆さん、視察も含めて、知っていただいたようでございますが、御意見、ランダムに結構ですのでいただければと思います。 これは、コミュニティ・スクールということで、今学校が抱えているこの部分をこれで突破したいということだろうと思うんですけど、どこか課題が大きくあるという認識があるんですか。

<p>天野教育長</p>	<p>必要性といいますかね、私まさにそこだというふうに思っています。学校評議員制度があって、そしてそれがうまく機能して学校と地域とうまく連携をやっているというのは十分分かりますけども、今後、各学校の地域との連携であったり交流であったりとかいうのを見たときに、やっぱりどうしても学校間での格差があるっていいですか。例えば地域のコーディネーターがおられるところはより教育の学習、学校の学習内容等加味して交流を行ったりとかやっているとこもあれば、なかなかできてないところもある。地域の連携、連携と言われながらも、そういった面が非常に薄い部分もあるというふうなことで、やっぱり後は、今いろいろ小中一貫であるとか教科「日本語」の取組であるとか、今度 2020 年の学習指導要領改訂に向けていろいろ取組がいっぱいあるんですけども、そういった中でそれを全部こうカバーしてお互いにこう積み込んでっていう流れの中では、やはりこのコミュニティ制度を取り入れて、より地域と連携を深めて地域と共にある学校を目指すべきじゃないかなと考えます。市長さん言われますように、課題があるのかということ、もう目の前で今ここが足りないというのは確かにないのかもわからないんですけども、今後小中一貫とか教科「日本語」を充実させていく次の一手となると、やっぱりこういうコミュニティ・スクールあたりのところでやっていくのじゃないかなあっていうふうな気がしておりますけど。以上です。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。</p>
<p>深川教育委員</p>	<p>先ほど市長さんが課題っておっしゃった時にぱっと私の中に浮かんだのは、実は私自身の体験からですけども、特別支援学校の中で病弱のお子さんたちがいますよね。佐賀県の実例なんですけれども、例えば A の小学校から中原特別支援の方へ転校したら、こちらの机椅子はもう全部片づけられるんですね。転校したら大体そうですよね。そうすると、たまに外泊をして家に帰って隣近所に子ども、同級生がいて、「私の机ある？」とか「私が良くなったら帰ってくるよ」って言った時、「机ないよ」って言われちゃうんですね。</p> <p>各学校に学校公開をするために、校長先生に「先生の学校のお子さんと A 君は今こんな状況なので、もうすぐ元気になって戻りますよ。」「えっ、そんな子どもいましたっけ」って言われるんです。</p> <p>きちんと学校内での連絡も行ってない。この地域の子どもたちの机椅子がないっていう話もある。そしてそれが教育委員会を通じて転校の手続きをお願いするので、「おたくの地域からの転校生の A 君はもうしばらくしたら元気になりますので、そろそろ帰りますので、受け入れ学校のほうへの連絡お願いします」って言うと、「戻</p>

	<p>ってくるんですか、あの手のかかるお子さんが」と。声は聞こえませんが、「えっ、あの子が」って本当にびっくりしたような感じと言われるんです。現実そういう状況の中で子どもの居場所ないんですよね、そうなるよ。</p> <p>私はその、家庭の教育力も弱くなっていますけれども地域の連携が非常に今弱くなっていますので、やはり地域ごとに教育力っていいですか、子どもを育てていくんだ、私たちの地域の子もだっている意識をもう1回考え直さないといけない時期に来てるんじゃないかっていうようなことをすごく感じます。以上です。</p>
橋本市長	<p>はい。非常に現場の声を聞かせていただいた気がいたしますけれども、そこら辺は何か反論ございますか、事務局は。</p>
木村学校教育課 参事	<p>この課題と申しますと、私がこのコミュニティ・スクールの視察に行った時に思ったのは、今本当に職場は多忙感をすごく感じているようです。でもこれを推進することによってそのことは解消できるのではないかなど。これはやり方にもよります。逆にこれを多忙に感じる方もいるかも分かりませんが、これをうまく使うことによって多忙感が解消されるんじゃないかなということによって思っています。</p> <p>児童の席でしょう、そっちの方もですね。席につきましては、確かにないです。もう転校してしまった時は、転校手続きが終わった時点でもう片づけます。ただ、病気でどこかに行っていますね、そういう時はもちろん残しております。病気で入院してるとかそういう時はもう必ず残しております。その子の机も名前もちゃんとそこに、棚とかまた靴箱とかそういうところもちゃんと残しております。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この学校評議員っていうのが、この制度が始まった時に私、一番最初に評議員、鳥栖中学校だったと思いますけど、したことがあるんですね。その時は校長先生の反応としては、いやいややらされてるという感じで、はいはいはいはいって聞いてそのまんまでおしまい、結局じゃあ我々は何のために今日行ったのかなあということがあって、1年で虚しく解散をいたしましたけど、結局その、校長先生の裁量で全然これ、評議員もそうだしコミュニティ・スクールも校長先生の考え方次第で生きるも殺すも決まる制度だと思うんですよ。</p> <p>ですからその負担感とか、あるいは楽になる。多分楽になることはまずないと思います。大変になるだけだと思いますけれども、そこをどう校長さんが解釈をして采配をされるかっていうこ</p>

	<p>とで、成果はもう真逆に出てくるような気がするんですけども、そこら辺のところをどう考えるのかということと、要するに運営補助員、学校の運営補助員的な考え方をして先生が楽になるという発想なのか、あるいはそこら辺のところどうなんだろうなというのが1つあります。あとちょっと気になるのが、例えば韓国なんかですと、地域の方がいわゆる部活的なこととか、あるいは補習授業とかに積極的に取り組んでくださっていて、学校が終わったらそれぞれのまた違うくくりの教室にそれぞれの子どもたちが行って、夕方まで過ごして帰っているという状況があるので、いわゆる今のなかよし会の発展版みたいな取組みを韓国がなさってるって聞いてるんですが、例えばそういうことまでイメージしていいのか、あるいは、要は授業時間中だけのコミュニティ・スクールなのか、放課後まで含めたコミュニティ・スクールなのか、そこら辺どう考える。放課後であれば、例えば今のなかよし会とかも含めてかなりいろんな自由な発想ができると思いますが、そこら辺はどういうくくりなんでしょうか。はい、お願いします。</p>
<p>柴田学校教育課長</p>	<p>想定としてはですね、放課後補充学習だとか、土日も含めたところで地域行事とか、様々な形で大きく捉えて考えております。</p> <p>授業中で言うと、家庭科の授業でミシンとか調理実習とかそういったところで婦人会の方も今も来ていただいておりますけれども。あるいは読み聞かせボランティアとかですね、教科「日本語」のゲストティーチャーであるとか。そういったところでの活用もよりスムーズになるのではないかとということと、放課後補充学習も今年度から中学校4校で非常勤講師の方に入らせていただいておりますけれども、今自学方式でやってるんですよ。そういったところからすると、十分地域のボランティアの方辺りで見えてあげるとか、そういったところで活用できるのではないかなと思っております。</p> <p>市長さんがおっしゃったやらされ感とか校長のスタンスでかなり意識が変わってくるだろうというところですけど、その辺を上手に学校が地域の方と一緒に子どもたちを育てていこうとか、地域の方も母校のためとか地元の子どものために、学校愛とか子どもたちのためにということで積極的に関わっていただくと、うまく回るのではないかなとは考えております。</p> <p>下関市の方でも最初の方は、教師については多忙を感じる教員の方が多かったというようなことも聞いておりますけれども、取組みが進むにつれまして、組織の連動とか会議の精選とかコーディネーターのうまい活用等もあって順調に進んでいるというような報</p>

	<p>告も受けましたので、まずは手を挙げていただく。教育委員会から指定するというよりも、積極的にやってみようっていう校長さんからスタートできれば本当はいいのかなっていうふうなことも感じております。以上です。</p>
橋本市長	<p>戸田先生、いかがですか。</p>
戸田教育委員	<p>2点ございます。1つは心配事というか教えていただきたいという点なんですけども、このコミュニティ・スクール、鍵は地域住民とか保護者の学校参加だと思うんですけども、その実現可能性っていうのがこれまでの状況とコミュニティ・スクールを導入した状況とでどう変わるのかっていうのをどのように考えればいいのか。例えば、これまで10何年間学校評議員制度を導入してきてその延長線上でって言われるのであれば、その延長線でどういうことが見られるのか。ぱっと思い浮かぶのは、例えば学校の役員になってくださいのなり手で苦勞されてたりするようなのが現実なのに、コミュニティ・スクールの運営協議会の人また増やさなきゃいけないとか関わる人増やさなきゃいけないっていうのが、何ですかね、本当に実現可能なのかどうなのか。その辺に対する心配事があるのが1点目です。</p> <p>続けていいですか。もう1つはせっかく市長もおられるんでもう少し大きな話なんですけども、ここでまさにキャッチフレーズで「地域力を学校へ、学校力を地域へ」って書かれてるとおり、今コミュニティ・スクール、いくつか文献等読ませていただいたんですけども、学校の取組み、学校教育に地域をどう活用するかっていうのが多分主眼だと思うんですけども、鳥栖市におけるコミュニティ・スクールをどういうところを目指すのかっていうので、是非後者、「学校力を地域へ」の方も考えたようなのをつくれないうのを考えてます。</p> <p>具体的に何を言っているのかっていうと、いろんな政策で今校区単位、小学校区単位だとか中学校区単位で取り組まれていることがいろんな分野でございます。鳥栖市においてもコミュニティづくり、鳥栖市はまちづくり推進協議会ですか、再編されてやられています。まさにそれは教育ではなくてまちづくり、こちらでいくと市民協働推進課マターだったり総務省マターって、部署が違うのかもしれないんですけども、そちらと形だけではなく、より積極的に関わるようなコミュニティ・スクールという政策をつくれないうか。あるいは他にも防災の話、地区防災計画の話だとか福祉、ええと何だ、地域包括ケアの話だとか、市よりもより小さな単位でいろんな政策が横並びで動いているのをうまくコミュニティ・スクールを生かしてそ</p>

	<p>ちらに繋げられないかっていうのを考えてます。</p> <p>何でかと言うと、もう1つ先ほどに繋がるんですけども、いずれもやっぱり住民参加が課題です。なかなか絵は描くけども地域住民がまちづくりに関わるってなかなか難しく、その中で、さっきとは逆のことを言うんですけども、教育、小学校の教育・中学校の教育というのは、参加の、地域住民の参加の大きな契機になると思うんですよね。だからその辺をうまく取り込んだようなコミュニティ・スクール政策っていうのを鳥栖市で考えていただければいいなと。言いつ放しじゃ申し訳ないですけども考えました。すいません、以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。吉原さん、古澤さん、いかがでございましょう。</p>
古澤教育委員	<p>今まで幾つか意見出てきたんですけど、これ思った時に、学校のまず校長先生辺りがやらされ感という話が出てきました。同じように、今戸田委員も言われたんですけど、地域の方から学校に関わる方については、どうしてもいろんな役をされてる人に集約されるような感じが。また役が増えたねということで、そちらの方もやらされ感があるんじゃないかなという心配があります。</p> <p>それと、校長先生は基本、異動して新任の校長になったばかりで、「はい、自分のところがやります」という方はまずいないだろうと。やはり2年目、3年目。で4年ってなかなか校長先生在任されないという話でした。そうなってきた時に、学校数からすると限定的になってくるんじゃないかなという気がしてます。教頭の時からその学校で上がってあれば1年目からでもOKかもしれません。</p> <p>そういう課題もあるんじゃないかなというふうに思ってるんですけど、鳥栖市がそういう状況があることは分かってて進めようと、これ国の方針もあるんでしょうけど、進めていくっていうからには、教育委員会としてのしっかりとそこら辺の制度のメリット、これはしっかり伝える必要があるだろうと思います。校長だけじゃなくて、一般の先生方も。多忙感というのはこれ、どこの自治体でも言われていること。もうまた増える、また増えるということで、いかに減らすかっていうことで、業務をとという部分に配慮してたかなと思うんですけど、これをだからうまく活用すれば、こういったことが随分軽減されるんだよというふうなことが考えとしてあるのであれば。私も確かに一緒にですね、視察に行かせていただいて、生の声を聞かせてもらいました。分かった部分もありますので、そこら辺はしっかりと押しつけじゃなくて決めつけじゃなくって、やはり想定される効果だとかはよくよく検証した上でお伝えを</p>

	<p>していく必要があるんじゃないかなというふうに思ってます。</p> <p>それと地域の方を選ぶ場合に、やはりあの、このコミュニティだけじゃなくって、コミスクだけじゃなくって、それじゃない、もっと関わり方としては簡易な部分にしてもですね、そういう部分にいろんな声掛けをして、保護者の方が少しでも顔が見えるように、行きやすいようなハードルを下げてですね。すると、案外いいじゃないって、こういうことやってるのねっていうことで理解が深まって、もうちょっとやってみようかなということもあるかもしれません。これは経験として、いろんな私個人的にもよそで経験してるので、そういった部分をいきなりこういう大きな部分というよりも、そういった部分で考えられる部分については今関わってある方を増やすという取り組みも一方では必要ではないかなというふうに感じました。一応今のところはこれでやめておきます。</p>
橋本市長	抑えた発言ありがとうございます。どうぞ、吉原さん。
吉原教育委員	<p>はい、ま、コミュニティ・スクールにつきましては視察の方もですね、下関に大野城市、行かせていただきました。大変活動的なことをしてあっていい面をですね、見させていただきました。</p> <p>ただ、この核となるですね、コーディネーターですかね、地域の方が入ったこのコーディネーターの核となる人がかなりやっぱ動かれて、またそういうこのコミュニティ・スクールが形成されるというか、うまく回っていくというのも非常に重要になってきますので、他の方々からも意見があっているように、やっぱり地域の協力者の方の力っちゃうか、それかなり必要になってきますし、そこがまた崩れてしまうとこのコミュニティ・スクールも、せっかく校長先生以下頑張ってもなかなかちょっと難しい面もあるのかなと思いつつ、非常に重要なことだと思っております。</p> <p>またあの地域コミュニティとのですね、言われたように地域コミュニティとのこの連携っちゃうのを非常に図らないと。まち協にしても、各学校の校長先生辺りも当然まち協の役員ちゃうか、あれにも出てられますし、また再度いろんな出事が増えるのもね、ある程度メリットとしてまたね、考えていって進めていければ一番いいのかなと思う。思いました。</p>
天野教育長	<p>学校の方から地域を見るということももちろんですけども、先ほどの戸田先生話されたように、地域の方々から学校を見るというふうなことを考えた時に、地域の人々がやっぱり学校とうまく連携してまちづくりをしようというような目線でね、やっていただくということが1つの大きな、今までの学校評議員とは違ってくるというふうに思ってますし、やはり校長は2年3年、長くて4年と思うん</p>

	<p>ですけど、そして校長が変わることによって学校が変わる。そのことによって地域との繋がりも変わってもらいと困る。っていうのは、もちろん学校長の思いとか学校長の学校運営は大事なんですけども、やっぱりそこには地域との繋がりがきちっとあるというふうなことを考えると、やっぱり学校評議員のような諮問機関みたいに意見を聞くようなものじゃなくて、やはり学校運営協議会の中でしっかりと方針を決定し承認をし、どういった学校にしていくのかしっかりと運営協議会の方と協議しながら1つの学校をつくっていくというところも含めて、いくら校長が替わろうが、どんな校長が来ても学校運営協議会としてしっかりしたものを持ってやっていくんだよと言うところの見方というのが大事でしょうし、さっきも言ったように、その地域の人々が学校を核として地域をつくるんだよって。そうなるやっぱりさっき言ったまちづくり協議会というよなとことの連携ってあたりが非常に鳥栖市の場合は重要になってくるし、そういったところ、鳥栖市なりのコミュニティのあり方っていうのはもちろん今からしっかり研究していかなくちゃいけないというふうに思ってます。以上です。</p>
橋本市長	<p>今のを受けていかがでしょう。</p>
古澤教育委員	<p>教育長とは一緒に視察にも行っているんで、同じような感覚で受けていたかなと思ってます。</p> <p>えっと、もう1つ踏み込んだこと言いますと、新しい、いつまでに順次っていうことでしていく際にはですね、教育委員会としても本腰入れて制度化していくということになれば、支援というのをですね、口先だけではなくていろんな部分も、人的な予算的なそういった部分を含めてバックアップできるような体制を内部としてもとっとなきゃいけないんじゃないかなっていう気がしてます。</p> <p>それともう1つ、どこまで情報を地域に。地域に応援してもらって、地域からいろんな部分で手伝ってもらおうということになってくると、情報の出し方、情報を個人情報ですからとかいうことでどうしても学校あたりは守りに入るけど、問題のない範囲でどこまでそういう情報を、恐らく流してもらわんと活動しにくいよという話が当然出てくるわけですから、そこら辺もスタンスとしてですね、どこまで流せるか出せるか、そういう部分を共有しておかないことには活動というのはなかなか踏み込んだことができないんじゃないかな。ただ、出し方についても難しい部分もあるでしょうから、そこら辺も慎重に検討しとかないといけないんじゃないかなというふうに感じました。</p>
橋本市長	<p>例えば御経験からどういう情報？</p>

古澤教育委員	<p>恐らくですね、感覚的には例えば、学校でいじめの被害者、いじめを受けてる側、いじめをしてる側、そういう子どもさんがいます。そこをどこまでそういう委員の方で学校にしょっちゅう出入りされてる今度のその運営協議会の委員、どこまで現状こういった課題がありますということをしかりと下ろせるかどうか。</p> <p>それと例えば、ものすごく大きな病気にかかっていると。しばらく来ないけれども、その学校の生徒。そういった子どもさんがちゃんと地域にはおられる。そういう部分についてどこまで流して問題がないのかと。そういう部分がデリケートな部分があるからですね。保護者の方としては、何でうちの子の病気のことまで地域に流さないかんかっていう部分は反発してくるでしょうし、地域としては、信用してもらってれば一定の部分は流してもらわんことにはという部分がある、あったかなっていうふう。そういう部分です。</p>
橋本市長	<p>恐らくそこら辺、発達障害とかですね、様々な問題がありますけれども、そこも関わってくるような気がするんですね。発達障害、もう御承知のとおりすごく増えています。もうそれこそ10年20年前2%未満ぐらいだったのが今7、8%ぐらいの発現になってきています。今委員の皆さんには本をお配りしたんですが、久保田先生の説によると出産の仕方と体温管理と栄養のあり方が一番大きな原因なんだというご指摘があったりして、確かに現実問題増えていると。その子たちを、学校によっては数十名いるわけですから、どう相対すればいいのかということはある程度わきまえとかなないと、学校の助けをすと言ってもですね、そこでもうトラブルになってもうやめたっていう話になりかねないところがあるので、今後特に鳥栖も含め激増してますので、そこら辺の取扱いというのはですね、とても悩ましいところでもあるのかなあと思いますし、ただ一応そこはわきまえた上でやらないと、結果、良かれと思ってやったことがですね、マイナスの評価になってしまいかねないかなあと。特にその保護者の皆さんは非常に神経質になられてますので、我が子がそういう状態であるということを知られることそのものを非常に忌避される部分がありますので、そこが非常に悩ましいかなという気がします。ってじゃあじゃあその子たちを対象外にしますと、これはまたこれで問題でありますので、課題は多いかなという気はいたしますね。</p> <p>で、そうなってくるとですね、例えばその予算とか今ご指摘がありましたけれども、見てみると大して変わらないんですよ。人数増やせて話ですよ、本当に大丈夫かかっていうのを見たと思わうんですけども。人数倍なら倍ぐらいの予算がかかってしかる</p>

	<p>べきだろうし、例えばいろんな活動する中で材料代が要りますとかね、諸々諸々発生した時に、じゃあそれはどういう考え方で負担をしていくのかとかあるいはというようなところまで一定想定しとかなないと、社会参画と言ってもですね、じゃ料理を何か実習を何かしましょうと、材料をどうするのって。いつもいつもかつもその近くの農家の方から寄付をいただいてやるのどうするのっていうのは出てきますよね。ですからちょっとそこの予算があんまり、下関はどうされてるのか分かりませんが、フグは漁師さんから分けてもらってやるぞという話なのか知りませんが、ちょっとそこら辺がね。本当に実際これで回ってるのかなっていう正直疑問符を持ちながら聞かしていただいてたんですけどというのが1点と、やっぱりその、先生方のやらされ感と地元の方のやらされ感というのをどう払拭をするかというか、どういう手だてをするか。</p> <p>だとすると、例えば薄く広く広げるしかないのかなという気もしますので、例えば鳥栖辺りでいくと、よく企業さんとお話をして最近感じるのは、企業の方がですね、学校でいろいろ話をするということ結構実践して下さっている企業が増えてきています。ですから、鳥栖では種々様々な業種がありますので、そういったところも噛んでもらってやっていくとか、あるいは企業の活動と一緒に何かさせていただくとかという、そこは鳥栖ならではの取組みができなくはないのかなと。企業であれば、少なくともその事業所のトップが了解さえすれば業務命令で動きますから、その人的な問題とかですね、コストの問題とかっていうのは一定解消が図られるかもしれないし、そういった活動をしていたことを我々が広報することによってその企業さんに報いるという方法はありますので、鳥栖の地域だけに縛られずに、鳥栖が置かれてる環境をちょっと活用するという考え方もあるのかなという気はしなくはないんですけど。</p> <p>思いつきで大変申し訳ないんですけど、ちょっとその、下関のこの予算と実際の実施状況とのそこに齟齬はないのかっていう、ちょっと教えていただけるとありがたいんですけど。</p>
柴田学校教育課長	<p>下関市の予算に関しましては3ページに書いている分です、コーディネーターに月1万払っている分と、外部指導者、講師の招聘ということで1万6千円。そして消耗品に1万2千円ということでやりくりしてるようです。しかも聞くところによると、コーディネーターさんも12万の分で相当、私は要らないから学校で使ってくださいとかですね。そういったことでほとんどボランティア精神でやられてる方が多いというふうに聞きました。長く続けていくにはこういったボランティア精神で委員さんが関わっていただくの</p>

が一番いいのかなと思っております。一方で、戸田委員さんとかもご心配を言われましたけども、本当にそうやって学校に参加していただく人が確保できるのかといった、なり手があるのかとかですね、そういったご心配も確かにあるかと思えます。

一方で、鳥栖市でもコミュニティ・スクールではありませんけれども、麓小はかなり地域の方が積極的に学校の方に入られていて、まあ、まちづくり推進センター長も元校長先生ですし、地域に酒井先生とか檜崎先生とかですね、教員OBもたくさんおられまして、例えば花壇のお世話とか子どもたちへのゲストティーチャーとかも積極的にしておられますし、麓祭りですか、地域の方がたくさん来られる行事があります。そういったところで今すぐにでも地域の方がたくさん応援していただけるのではないかなっていう学校もあるのかなと思っております。

そして、「学校力を地域へ」というところで、例えば地域の様々なお祭りとか行事とかそういったところで、コミュニティ・スクールの導入したことによってかなり地域に子どもたちが出てきたといった成果も下関市とか大野城市から聞きました。それもそのカレンダー辺りで学校行事と地域行事等がしっかり組み込まれているので、そういったところで子どもたちが地域に行く機会も増えるのかなというふうに思っております。

それと色々な役職が重なってしまうというところですけども、そのまちづくり推進センターのまち協の推進協議会ですかね。あの分とうまくリンクできないのかなと思っております。あの部会の1つをコミュニティ・スクールの部会にするというのは、簡単にはいかないかもしれませんけども。まち協の会議等も、私も校長の時に参加してましたけれども、予算がついてるから何か活動しなくちゃいけないというふうな、そういうふうな何となく皆さん、やらされ感っていうか、そういったところで当時は動いていました。今は違うかもしれませんけども。そういったところで、学校を核としたところで1つああいった組織が学校のために何かしてやろうとか、うまくまち協とのコラボというかそういった政策をすると、あっちに付いてるお金をコミュニティ・スクールの方にまわすとか。まあ予算面ではですね、今学校に「開かれた学校づくり」っていう予算もいただいていますのでその辺の活用、あるいは今つけていただいている学校評議員会の謝金と同規模辺りでこのコミュニティ・スクール運営ができるのではないかなとは考えております。

いずれにしても、地域の方々が子どもたちのためについていう思いを持って、やらされ感じゃなくてですね、喜びを持って、タダでも

	<p>子どもたちのために頑張るといふふうなまちづくりが、学校づくりができればいいなどは考えているところです。そういった理想どおりいくかわかりませんが、下関等の様子を見てきてそんなことを感じました。</p>
橋本市長	<p>はい、どうぞ。</p>
園木教育次長	<p>課長が今言いました部分で私の方は逆にちょっと懸念持っております、今の評議員制度で条例規定等で決めている日額5,700円という費用弁償を行っている現状から考えて、コミュニティ・スクールの下関の例で見ますと、学校経営に直接参画すると。経営方針等について意見を申し上げて、中身、資料見ますと、承認されなければ学校長は暫定の運営方針で承認を得るまでやっていけと。要は学校経営にこのコミュニティの運営協議会がしっかりと権限を持って参画するという形になってますので、それを考えますと、今の学校評議員制度に1回費用弁償5,700円という負担をしてるということを想定しますとですね、役職も含めて責任も含めて考えると、当然相当額の15名分の費用弁償っていうのは必要になってくるだろうと。通常考えた場合にですね。それと恐らく、先ほどからお話があつてますコーディネーターの方の役割というのが非常に大きな役割になってくるだろうと。この方に恐らくかかってくるだろうと。最初の取っかかりのハードルの低いところから仕掛けていって、成功体験を増やしながらかこのコミュニティ・スクール事業を進めていくというやり方になってくるだろうと思っておりますけれども、当然そこをコーディネーターの方にはそれなりの活動をお願いすると。当然その学校と地域に絶大な信頼を持ってある方でないと恐らく担えない業務だろうと思っておりますので、そこら辺考えていきますとやはり一定費用というのはですね、想定をしておく必要があるのかなというふうに思いますし、先ほど市長のほうからお話がありました地域の企業の参加というのもですね、恐らくこの方、評議員っていうかその運営協議会にですね、コミュニティ・スクールの委員として地域の企業からも参画いただいておりますので、そちらからも応援いただくというような形というのもですね、1つの手法としては非常に有効な手法ではなかろうかというふうに考えますけれども、ご指摘あったように何でもかんでも全て一遍にやりましようっていうのは無理だろうと思っておりますので、段階を踏んで少しずつ成功体験を増やしながらか理解を広げていくというやり方でないとなかなか難しいのかなっていう感想を、委員さん、市長のご意見等いただくなかで感じたところです。以上です。</p>
橋本市長	<p>はい、どうぞ。</p>

<p>深川教育委員</p>	<p>はい、先ほど市長おっしゃいましたけども、企業の方はトップが理解を示せば参加しやすいというようなお話あったんですけども、企業の方は割とそういったことで依頼状出せばお願いをすれば、学校の方に参加をしていただくことは可能だと思うんですね。やっぱりそこでどちらかという公務員の方が上司に話をすると「有給休暇で行きなさい」という感じで。もちろんそれを出張で行きなさいというつもりは全然ないんですけども、やっぱり私たちも地域に出ていかないとお互いそこはなかなか理解が図れないところがあるのかなっていう感じがすごくいたします。ということを先に言っちゃうと負担感はますます自分にかかってくるっていう、これまた不思議な気持ちの中で意見を言っているところですけども。以上です。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>多分お互いの腹のくくり方次第だと思うんですけどね。結構やっぱり今園木部長からご指摘があったように、コミュニティ・スクールのメンバーになる皆さん、かなりの権限を有したり、あるいは逆に権限を有するということは責任も負わなきゃいけない立場であるし、校長先生がなかなかね、言うことを聞かれない場合はっていう話もあるみたいですから、そうなるど誰が責任持ってこのコミュニティを、コーディネーターの方が多分核になるんでしょけども、かなりの責任を有する話になってくるんですよ。</p> <p>ともう一つは校長先生、これは教育長に是非お願いしたいんですけど、校長先生ってできるだけね、地元出身の人を就けて欲しいんですね。これですね、特にね、転任されてきてしよっぱな、もう地名も分からない、何も分からない、かにも分からない。で、すぐ学校から真っ先に帰ってしまうとかね、よく聞く話で。それで地元の行事もなかなか顔出ししないとかなですね、いう話があってやっぱり地元出身であればやっぱりその方本人が生まれ育った、知己とかそういった方に声を掛け易いということで学校はすごい楽だと思えますし、そこは是非校長さんというのは地元出身の方を据えていくような努力をしていただくほうがやっぱり随分違うような気がいたしますよね。やっぱり地元の折角こうやって手伝おうという方でも、何町の何とかさんところのとかって、「えっ、どこですか」と聞かれるとね。それだけでもう挫折して、もういいやっていう話になりますので、そこは大変大きな要素のような気がいたしますね。ですから、少なくとも鳥栖市内の学校の校長先生は地元出身で固めるとかなですね、そんならいの個性は出していいような気がします。これは先生方もおっしゃいますし、校長さん本人もやっぱりね、遠くから通ってるとね、なかなか地元にいる時間が少ないので大変</p>

	<p>肩身が狭いという声は聞きますよね。</p> <p>でまあ、それが全てとは言いませんけれども、少なくとも極力そういう努力はやっぱり必要かなっていう気はしますし、その学校の特色特色と言いますがその特色はだれが形づくっていくんだという。じゃあ、地域の声が強くていいのかと。</p> <p>例えばアメリカでよく聞くのは、農業が主体の地域は、はい、歴史は要らない、何は要らないって、教科まで省いて、もう農業をしていくために必要なことだけ教えればいいということをやったりして、それはそれで世界史は学ばない、何も学ばないっていう子どもたちはアメリカの地方地方にはたくさんいるわけですね。</p> <p>だから、そこは日本の良さだと思う。全て世界史も日本史も教えないきゃいけない。今は随分選択が狭くなってますけども、それで高校は何ですか、物理も教わらない子がいるでしょう。でもこれもやっぱり要るんだという指摘はありますし。</p> <p>だから、余りに地域の個性が教え方に出てしまうと却って子どもたちの将来性を狭めるところもありますので、ここら辺のね、こうせめぎ合いというのはあるんですよ。これから文科省としてはですよ、ここはどこまでこの辺の力をコミュニティ・スクールに持たせようと思ってるんですかね。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>文科省がっていうことではないんですけど、基本的にはもう全ての学校をコミュニティにしたいというのが文科省の考え方ですね。やはりちょっとトーンダウンは今してます、確かに。しかしここ5年ぐらいで一応コミュニティ制度を全部やりたいという。実は制度化して、今年度ぐらいから来年度ぐらいからはもう是非どの学校でもという話も出てました。しかし、やはりいろいろな学校事情、今言われたようなことも含めて地域の実情等も含めてコミュニティをっていうことは努力義務的な感じになってるのはそういう事情で、だいぶトーンは下がってます。</p> <p>で、さっき話が出ましたようにやっぱり私も地元の校長、地元の管理職は、地元の学校には地元の管理職を置きたいという思い、ものすごく強く持っておりまして、そのつもりで一生懸命努力をしているんですけど、如何せん人材難ですね。人材難にどうしてなったかということ、それだけ若手が、若手っちは言いますか、今の中堅どころ50代がはっきり言って校長として育てない。校長レベルに育てない部分もあるのかなっていう思いもしています。</p> <p>しかし基本的には校長と教頭がいた場合は地元をどちらかを入れましょうというのは内規みたいなことで決めてますので、是非お願いしたい。しかし両方とも違うっていうところもあるんですよ。し</p>

かしその地域もどれぐらいの地域かという、一応三神管内ぐらいでやらないとどこの学校も埋まらないという状況と、もう1つは、必ず校長は、校長が教頭の時に1度は必ず他の事務所、他の地域に出しなさいという決まりが内規がこうある。というところもあってですね、なりたての校長がポンとこっちに来る。逆に言ったら佐々木さんは大詫間小にポンと行ったとかいうふうなことなんですね。将来的にまた戻って来るんですけど、戻って来るようにはやらなくてはいけないというように思ってますけど、その辺について非常に難しい面もあるなっていうのは考えてます。

今一番は人材難ですね。非常にだから私も昨日までずっと校長面談等、県の方と話をしてたんですけども、なるべく地域の方をこっちに呼んで、そして地域を分かった上でこのコミュニティにしてもやりたいという思いもあって、そんな感じでやっていきたいというふうに思ってますけど。

ちょっと視点を変えて、視点を変えてといいますか、私も実はあの地域コーディネーターがものすごく大きな役割を担っていると思うんですよ。それで、ちょっとさっきも言いましたように、地域コーディネーターがうまく機能して、例えば麓小でいうと檜崎前教頭先生が地域コーディネーターとして、また中尾まちづくり推進センター長が、2人がガチッと組んで麓地区をやろうということで、その2人にうまく校長が、今この藤戸校長が今度帰ってきましたけども、それがやるとものすごく相乗効果があつてうまく学校も回り出す、回り出しました、今度回り出しました。

そこに校長の考えがちょっと違うんだろとなると、なかなか地域の方から、今度の校長は何だ、全然言うこと聞かんやんかいとか変なこと言うぞとか、もう逆に私の方に聞こえてくるような部分もあるんですが、その辺が非常にこの地域の中での校長をいかに生かすかということは難しいと思います。

しかしまちづくり、コミュニティをしながらその運営協議会の中でそんなに、もちろんその運営協議会のメンバーというのは責任もありますけど、校長先生とうまくそこで情報共有をしながらすばらしい学校づくりということではですね、そういったことをしっかり行いながら学校運営に役立たせていくというか、そういったことをやっていかないと、今の時代でその地域に地元の校長がついていうことは全然あり得ないというふうな感じもしますし、努力はしてるんですけどなかなか厳しい状況もある。そうするとやはり地域の声が随分その辺で反映されてる部分もあるのかなっていうのは思ってます。

	<p>是非その地域のコーディネーターをですね、私はもう確保したいんですよね、はっきり言って。今12小中ある中で、例えば中学校校区、4つの中学校校区に1人ずつでもいいので、なるべくこういう地域コーディネーターをつくりたいというふうに思うんですね。その地域コーディネーターが中心になって学校と地域とを繋いでくれるとなると、それでかなり学校の多忙感がですね。そこで必ずいろんな地域を入れてやる中で、校長がやったり地域担当がいたり級外がいたり、いろんなことをやっている連中がやっぱりその地域コーディネーターを中心に一致協力してやっていくことで随分楽になるんじゃないかな、学校が他の面で仕事ができるんじゃないかなということを見ると、地域コーディネーターはきちっとつけてしっかり予算も組んで、学校運営協議会のメンバーももちろんそれはそれなりに大事なんですけども、まずはどちらが優先っていうと、私は地域コーディネーター辺りを中心にガチッと組んでいきたいというような思いを持っています。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。この学校評議員制度は、これはこれでまた残すんですか。もうなくしてこの協議会に移行させようということでもいいですか。じゃあ例えば、協議会がある学校と評議員制度で残る学校と出てくるということですね、うん。</p> <p>であれば、あれですよね。まち協の時もそうなんですけど、いつも申し上げているのはやっぱり成功モデルをちっちゃくていいからつくって、全部一遍に始めるのは無理ですから、成功モデルを1つでも1校でもいいのでやっていただいて、あそこはいいねっていうのを、じゃあうちもやろうかっていう声にしていかないと。</p> <p>やっぱりここはですね、あんまり先導してやると、だからこのコミュニティ・スクールという言葉もあんまり外向けには使わない方がいいのかもしれないですね。しれっと始めて。予算取る時は要るのかもしれないけど、しれっと始めて。</p> <p>じゃあ例えば麓小がそうやってうまく回ってるのであれば、それを自然にそっちに仕向けて行って、予算を取る時はこのコミュニティ・スクールという言葉を使っても、まちに向けては何も言わずにやって、実はこうだったんだよっていう方がいいような気がしますけどね、何か。何かやっぱりこういうのはすると皆構えてしまうんです。</p> <p>要は校長先生がいかに転がし方がうまいかという、これだけですね。もう地域にするりと入り込んで、「実はここ困ってるんですよね、何か」ということでいけばですよ、「ああ、そうか」ということで動いてくれるんですけど、実はこういう制度を始める</p>

	ことになりましてと言うと、それでもう壁ができてしまうんですね。そこはもう本当に校長先生次第だと思いますけどね。
深川教育委員	はい。
橋本市長	はい。
深川教育委員	はい、私は小中学校とは全然違う立場の、知らない土地でばかりの校長っていう形でやってきてきましたので。やっぱり核となる地域の人がいらっしゃるといことは、初めて行った地域においても、まずその方と最初の出会いをすれば、それなりの話が通じていくっていうことではすごく頼りになるというか、相談にも乗ってもらえるから、これだけの学校が県内でも動いてるっていうことは、教頭時代あるいは教務主任時代にそういったものを見ておられるから、全く初めてそういう学校に行っても、曲がりなりにもあそこでこんなことやっておられたよね、ここの地域はどうなんだっていうようなことへの関心っていうのは、校長先生をされる方であればどんなにあの能力がっていうような課題があったとしても大丈夫じゃないかなっていう感じはちょっといたしましたけれども。
橋本市長	ありがとうございます。この県内の先行学校の経験者の方はどういう感じなのでしょう、もし分かれば。とんでもないばいという話なのか、あるいはやっぱり良かったよっていう話なのか。
天野教育長	一番はあの、しっかりやってるのはですね、嬉野市なんですよ。ここに12校ということで、杉崎教育長とよくこの件について話をするんですけども、その地域の応援団として一番は、聞いた範囲なんですけども、地域の応援団としてもう、より今まで以上に地域の方が学校に入られるっていうのが一番だそうですね。そしてその今まで必要以上、今までいろんな面でご協力いただいていたんですけども、質の高い内容で入ってこられるというようなことで、毎年嬉野市は研究発表の冊子もまとめていただいていますけども、非常にすばらしい実践を行うことができてるっていうようなことは聞いてます。以上です。
橋本市長	いいことばかりと。
天野教育長	全部一遍にやっているところは嬉野市と白石町ぐらいでしょう。白石町は去年、一昨年からやったということで白石町の話聞くんですけど、ちょっと白石小学校の校長とこの前話したんですけども、やっぱり運営協議会にお金をしっかり取られてるというようなことを言っていましたね、だから始めて2年目ぐらいなんですけども。だから学校評議会とどう違うて言うたら、そこは今まで鳥栖がやってきた学校評議会とそんなに違わないようなことを言っていました、はっきり言って。まだ自分としての高まりがないのかも分か

	<p>らないんですけども。で、どう違うね言うたら、やってることは同じだもんなあっていうことでそういうようなことも言った部分もあります、実際。</p> <p>だからそこが一番、私たちが今言ったように、なぜそれをしなくてはいけないのかなってところが一番問題なんですけども。しかし、やればいっぱい、何て言いますかね。大きく鳥栖市の教育をまた一歩先に進めることはできるんじゃないかなという、私はそんな気はしています。</p>
橋本市長	はい、どうぞ。
柴田学校教育課長	<p>コミュニティ・スクールでの勤務経験ありませんし。ただ、いろんな先生方と話をする中で、コミュニティ・スクールに行って大変だったとか、あれはやめた方がいいよとかそういった話は一切聞いたことはありませんので、そう敬遠すべきことではなくて、やはり時代の流れとしては、地域と共に、地域人材の活用ということで導入すべき方向ではないのかなっていう感想を持っています。</p>
橋本市長	教科「日本語」よりかましと、楽と。
天野教育長	<p>私は何かな、小中一貫教育を本当にこれだけやって、非常に。今年基里小中の発表もありました。素晴らしかったと思うんですけど、それに今度は教科「日本語」という形で、こう、中に内容の一本筋を入れましてですね。で、私もいろいろ話を聞くと、世田谷はちょっと何かこう少し右肩下がりで何かこうなってきたとかいうようなことを聞く中で、この小中一貫、そしてその中に教科「日本語」を入れてやっていく中で、今度はこのコミュニティ辺りのところで、さっきもちょっと話をしたんですけども、次の一手としてはこのコミュニティあたりでもっともっと地域にこの教科「日本語」についても広げる機会に、この運営協議会辺りができるんじゃないかなというそういう期待を持っています。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。多分高齢化が進んだ地域ほど学校が迷惑施設になってきてるんですよ、学校・保育園が。子どもの声がうるさいということで保育園が建てられない。もうそこかしこに出てきているわけで、ある意味もうあんまり残された時間はないのかもしれないなっていう気もしております、今のうちに地域を巻き込んだかないと、学校そのもの出て行けと排斥運動が起きかねないところがあるんですよ、正直。やっぱりあの、結構学校の周りからクレーム多いんですよ、やっぱり。砂埃が飛んでくる、枯れ葉が飛んできて雨樋が詰まった、木を切れ。なんとかさんとかっていうのはそれでしょっちゅうしょっちゅう来ます。</p> <p>やっぱりかなり、だからその意味ではもう学校は迷惑施設になり</p>

	<p>かけているところがありますので、やっぱり我が町の、我々の未来を託す子どもたちを育てる場所なんだというのをもう1回地域にも再認識してもらおう。そこは、我々もやっぱり育てていかないと我々の将来もないんだよっていうことをやっぱり知っていただくっていうか、やっぱり共同責任っていうかですね、やっぱりそこ責任の一端だよみたいなのところも認識していただく取組みになるんだろうなという感じを持っておりまして、私は是非何らかの形でできればなというふうに思っておりますが、そういうもう環境になってきてるのかなあと。</p> <p>で、実際問題この4月に開園していただく新しい保育園がありますが、1園は防音壁を造っていらっしゃるんですけど、正直。その防音壁が、要するにもうものすごい壁にならないような防音壁でお願いしますというお願いをしておりますが、もうそういうところまで来ておりますので、だからあんまりこれは喧伝したくないというところがあるんですけど、そういう状況ですね。だからもう下手すると、学校の周りに壁を造れというご要請が割りに近い将来来るのかなあなんていう感じもちょっと思っておりますですね。保護者でもいらっしゃる戸田先生いかがですか。</p>
戸田教育委員	<p>大変残念だと思うので。</p> <p>先ほど、学校を助ける意味で地域が関わる話をされたんですけども、もっと将来的には学校の施設を地域の人たちが共同利用するような形で学校に入れる。そのアメリカのコミュニティ・スクールってそういうような話なんですよね。そういった、先日武雄の小学校でそういう話書かれ、新聞に載ってましたけども、学校を、地域の子どもだけじゃなくて、学校というものを地域の財産なんだっていうふうに多くの人たちが思ってもらえるような、何と云うんですかね、仕掛けを、手を打っていかなきゃいけないのかなっていうのは、すみません、今市長のお話を伺いながら思いました。</p>
橋本市長	<p>これは地域が学校にどう協力できるかって話がメインだと思うんですけど、学校が地域に対して、これを通じてどういうことが考えられるんでしょうね、展開としては。</p> <p>例えばさっき、お祭りに出る子どもたちが増えてきたと。確か、無形文化財になったお祭りが60ぐらいもう消えているんだそうですね、維持できなくなって。例えば鉦浮立とかも北小の生徒さんが町を越えて参加して下さって何とか続いている。山笠も小学校の枠を越えて、北小・鳥栖小の校区ですけど、その枠を越えて参加を下さって何とか続いている。多分だから、子どもが減ってくると祭りが維持できなくなるところもあるので、例えば祭り、その校</p>

	<p>区で行われる祭りに学校から、何と云うかな、参加の要請をして、学校行事の一環としても出るとかですね。ここはその神仏に係るところもあるのでなかなか微妙な線もあるんですけども、ただ伝統行事という捉え方をすれば、それはそれでおかしくもないので。</p> <p>何かそういうこう持ちつ持たれつがないと、地域からくださいくださいっていうだけではなかなかやっぱり地域も。やっぱり学校から手伝ってくれるからこの祭りが維持できるとか、あるいは賑わいが全然違ったとかいうことがあると、ちょっと私もっていう話が出てくるような気がします。学校として地域に何ができるかっていうのも1つ、教育委員会としては考えといていただくと、言い出しが非常にし易いのかなという気がします。どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>少しそれに関連する分で、1月7日にそれこそ私が住んでる麓地区なんですけど、その中の一部、山浦町で、どこの校区でもされてると思います。1月7日はほんげんぎょうということで取り組みを、火を焚いて、その部分で、それこそ21年住んでるんですけど初めて参加しました、歩いて行って。それこそ若木園、大きな施設があるんですけど、その谷間の所の静かな環境の所で。ちゃんと私歩いている時に、前日から職員の方が準備されてるのを見ました。わあ、いいことされてるなど。町の中にも看板を立てて、いついつ何時からこういったことをします、参加くださいと。もちろんチラシでも来てたんですけど、それ行った時に随分と多くの保護者の方、それと子どもさんもおられました。療育園ですから施設利用者の方も随分おられたんですけど、地元の方はそこまではなかったかもしれないけれども、そういう中で火を点ける役に地元の少年野球の子どもたちが関わってたんですよ。これはいいなど。やはりそういう地元の行事にこういったことで参加されてるんだと。その意味合いを、ほんげんぎょうとはということで区長が五穀豊穰とかかがやんでとかそういった願いを込めてこうするんだよというようなことを言ってありましたので、いいことされてるなど。</p> <p>こういったことは、しっかりとまた通信みたいな形で各家庭にでも回してあると、また来年はもっと参加者が。当然行ったからには、口コミでうちの班の人には言おうかなというふうに思ったところなんです。そういう小さな取組みをされてる部分もあると思うので、しっかりとアンテナ張っていると拾えるニュースがあるんじゃないかなというふうに思いました。</p> <p>それとまた、市長もおっしゃってました企業は色々学校で取組みをされてる部分があるということで話された時に、実際年末に九州電力の方がうちの方に、自宅にみえて、タグラグビー、はい、これ</p>

	<p>を取り組みされ、県内でいろんなところでされてます。10月の4日に教育長と教育長職務代理者みたいな形の研修会があった時に行かせていただいて、その時に実際お会いしてて名刺をいただきました。その方が、主人がOBということもあるかもしれませんが、おかげで鳥栖北で2月の4日に実施させていただくようになりましたがとわざわざ御報告に見えたんですよ。そういうことであれば、ただ子どもさんとラグビーの選手の方が触れ合うだけじゃなくて、保護者の方もPRでもして参加してもらおうと、学校での取組みはこんなことされてるんだなということで分かってもらえるかなっていうふうに思ったところでした。</p> <p>で実際小さな、そういう知る人だけは知ってるみたいな事は意外と身近なところであるので、しっかりとそういった部分を拾っていききたいなというふうに感じたところです。</p>
橋本市長	<p>どうですか、ボーイスカウト歴が長い吉原さん。え、お父様だけ？そうですか。傍で見ていてどうでしたか。</p>
吉原教育委員	<p>どうですかね。</p>
橋本市長	<p>ようやるなって話ですか。 本通とかはどうなんですか。祭りだ何だとかの学校との付き合い方とか。</p>
吉原教育委員	<p>子どもの頃は住んでたけどもう住んでませんので、地域の事には関わってないですね、本通の。ただまあ子どもが少ないちゅうのは当然ですね、先ほどの山笠にしても宿町の御幸とかいう行事にしてもですね、子どもの参加ちゅうか、地元の子がやっぱり少ないというのは当然聞きますし。私も地元から出ていったものですから、地元に残ってる今の地の子ちゅうか、はもう当然少ないですよ。</p>
橋本市長	<p>ただあの、あれですよ。土曜夜市とか、何か湧き出してくるように子どもがたくさんいるじゃないですか。あれは昔なかった世界ですよ。</p> <p>だから、山口佐賀県知事がよく感心されるのが、生々しい話して申し訳ないんですけど、鳥栖市内を街宣車で走る時私ずっと乗ったの、何だ、鳥栖はと。子どもが湧き出してくるっていう表現をされて、やっぱりもう西の方に行くともう子どもは探さないといけなくて、もう登下校時間もう辻々からその子どもが湧き出してくるっていう表現をされましたね。こんな町はないっていう話でびっくりされていて、この前もキッズミュージカルの練習風景を見に来てくださって、今年の2月の公演、えっと中2の子ですかね、が独り芝居をですね、10分位なんですよ。ものすごいクオリティの高いせり</p>

	<p>ふ回しと踊りでちょっとびっくりするようなレベルなんですけど、そういうのをご覧になって、子どもっていうのはやっぱり可能性の塊だから何とかって話ね、されてまして。</p> <p>その印象があるので、やっぱりやっぱり子どもがまだまだたくさんいる鳥栖なので、この高齢化社会の中でどう皆さんの興味を引き付けていって、やっぱり貢献していただくからには何かお返しをその皆さんたちにしていくってことは何かあるんだろうな。</p> <p>何か木村さん、手が拳がってますけど。</p>
<p>木村学校教育課 参事</p>	<p>今年度このコミュニティ・スクールの佐賀県の大会があって、そこで大町と多久と松梅地区の話を聞いてきたのですが、その共通して言えるところが先ほど市長さんがおっしゃるとおり一方向じゃだめと。やはり双方向じゃないとやっぱり成り立っていかないと。そのためには先ほどから出てる予算とかも色々出てくると思いますけど、やはりこう負担感になっちゃいけないと。何か1つすることによって皆が満足してそれが喜びになり次に繋げると。そういう所がやはりどんどん先に進むんじゃないかなと。</p> <p>例えば例を挙げると、双方向の。地域よりも学校の方がたくさんもらってるけど、じゃ学校からはっていうと、例えば保護者の方が、また保護者の方以外もですね、地域の方は学校が身近に感じて学校が何かするとき学校に行き易くなったと。壁がなくなってきたと。先ほどちょっと壁の話ありましたが、壁がなくなってきたということと、小さな町ごとに何か祭りがあったとしてもそういう時に子どもが増えてきたと。どうにかすると社会体育などで何か大会がある前にちょっと寄ってくるとか、行事や大会などが終わった後にスポーツ、地域行事等に参加するようになったとか。そういうふうにするによってやはり双方向の関係ができてきたんだって事例も受けました。以上です。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。様々意見が出て、出していただきましてありがとうございます。</p> <p>多分、麓とか幾つかうまく地域に溶け込んでうまくやってらっしゃるところがあるように感じますので、そういった所でちょっとその成功モデルというか、成功事例をつくっていただいて、そこを大いに我々が広めていって、そこだけ美味い目見せるわけにはいかないというか、我々もというのが続くような流れをつくっていくことなんだろうというふうに思っております。</p> <p>我々の立場としては、今度は予算面でどこまで踏み込めるかということだろうと思っております、あと何か戸田先生、他の地域のこういった類の取組みで面白いものとか、ちょっともし集めていた</p>

	<p>だけるんであれば、ちょっとご紹介をいただきながら勉強して、ちょっとそう、そこに頭の隅に置いていただいて教えていただけるとありがたいなと思っておりますので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>あと3時までには終われということをおっしゃって、何か他に。一応この予定で進めると理解していいんでしょうか、これは。はい、どうぞ。</p>
柴田学校教育課長	<p>鳥栖総合計画の中で32年度までに2校というふうな目標を立てております。できれば30年から1校だけでも先行して、先ほど市長さんがおっしゃったような成功モデルをですね、そこで失敗しないように。いいモデルが一つできて、あ、良さそうだからうちも是非導入したいなっていうような声ですね、校長先生方から聞こえてくればいいなと思っております。例えば麓小っていう話も出ましたし、あるいは基里小中辺りが地域コミュニティとも非常に密接にうまくやっていただいて、地域での運動会をしたいとかですね、そういった声も出てますのでそういった地区であるとか、あるいは弥生が丘とかですね。様々な地域が考えられますので、押しつけることなく、うまく1つ成功モデルが30年に1校つくればなという事は考えております。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。このコミュニティ・スクール以外でも結構ですが、何かこの際ご意見ございましたらと思ひますが。一応トイレ改修はどういう状況か、大体ご存じですか。どうぞ。</p>
園木教育次長	<p>実は明日時間いただいて市長協議をお願いする計画をしておりますけれども、教育委員会の考え方としては2年間で小中の普通教室及び屋内運動場については整備を完了したいと。洋式化ですね、トイレの。今年度12月補正で、委員さんたちにご案内申し上げましたように、設計の方の委託料を計上させてもらって、来年度事業費を4校分。で、残りを翌年度という形で進めさせていただきたいと。</p> <p>あと課題として、私共もあと特別教室の空調の問題も抱えておりますし、大規模改修事業と大きな事業費が関連してまいりますので、今後また協議を進めさせていただきながら年次的に進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
橋本市長	<p>はい、洋式化についてはご説明申し上げてると思ひますが、普通教室棟と体育館とか外部の方をまず優先をします。避難所で議論があったのが、避難所として考えるのであれば和式しか使えない人が来た時にどうすんだという話があって、そっちへの配慮も要るんじゃないかというのが1つ。特別教室のトイレは少し残しとこう</p>

	<p>かということと、あと保育園を見ると、要するに踏ん張る力をつくるためにわざわざ和式を導入している保育園もあると。それを言うと、私は外でやる練習をした方がいいんじゃないかという話をしたりするんですけど。自然の中でどう対処していくかという、これは訓練が要るよという話をしてるんですけど。そんなことで一応洋式化については、基本普通教室棟と体育館、外部を全部洋式化にしていくということでやることになっております。またよろしく願いしたいと思います。</p> <p>でちょっと鳥栖の場合、今年から新産業集積エリアという大工事が始まりますし、今年で新しい庁舎の建設場所とどういう方法でどういう機能を持ったものを造るというのを決めていきますし、その後平成 35 年を目途に新「鳥栖駅」を造るという予定がございますし、国道 3 号の工事がもう始まります。とあと、そうこうするという時期に 32 年からごみ処理場の工事が始まりますので、多分財布が空っぽになるという状況がございまして、なかなか厳しい状況にはなっていないと思いますが、その中でこう何とか織り込んでいこうということでございまして。</p> <p>あと教科「日本語」の関係の問題とか、校正の問題はもう大体予定通りということで理解してよろしいですか。</p>
<p>木村学校教育課 参事</p>	<p>はい、今教科「日本語」につきましては、年末ですけども、印刷会社の方にも依頼して原稿を持って行っております。それであと弁理士、インフィールドさんの方にもお願いして、今あと幾つか変更がありましたのでそれについての著作権関係を確認してもらっています。2月の初旬には初校が刷り上がる予定であります。それを基に1回か2回ほど校正をして、そして3月末には各学校にお渡しできるように考えているところでございます。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>ということで、教科「日本語」についてはちょっと修正をした分がこの4月から使わせていただくということでございます。駆け足で申し訳ありませんけれども、今後の予定も含めご説明を申し上げました。</p> <p>他、委員さんの方からはよろしゅうございますか、はい。では貴重なご意見賜りましてありがとうございます。コミュニティ・スクールにつきましては、早い所は平成 30 年からの導入に向けて準備をするということで進めてまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。</p>